宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書　第66集

MIGIKUZUGASAKO

右葛ヶ迫遺跡（第２次調査）

一般国道220号青島～日南改良に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

２００２

宮崎県埋蔵文化財センター

宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書　第66集

MIGIKUZUGASAKO

右葛ヶ迫遺跡（第２次調査）

一般国道220号青島～日南改良に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

２００２

宮崎県埋蔵文化財センター

右葛ヶ迫遺跡遠景（北西より）

序

宮崎県教育委員会では、一般国道220号青島～日南改良に伴い、右葛ヶ迫遺跡の発掘調査を行いました。

右葛ヶ迫遺跡は平成６・７年度にも発掘調査（第１次調査）されており、縄文時代から近世にかけての遺構・遺物が多数検出されました。

今回の調査では、主に古墳時代の竪穴住居跡や土師器が検出され、当地の歴史を考える上で貴重な資料となりました。

本書が学術資料としてだけでなく、学校教育や生涯学習の場などで活用され、埋蔵文化財の保護に対する認識と理解の一助となれば幸いです。

なお、調査にあたってご協力いただいた関係諸機関をはじめ、ご指導・ご助言をいただいた先生方、ならびに地元の方々に心からの謝意を表します。

平成14年12月

宮崎県埋蔵文化財センター
所　長　　米　良　弘　康

例　　言

1　本報告書は、一般国道220号青島～日南改良に伴い、宮崎県教育委員会が行った右葛ヶ迫遺跡（第２次調査）の発掘調査報告書である。

2　発掘調査は宮崎県教育委員会が主体となり、宮崎県埋蔵文化財センターが実施した。

3　発掘調査は平成13年12月10日から平成14年１月28日まで行った。

4　今回の調査地は平成６・７年度に行われた右葛ヶ迫遺跡発掘調査（第１次調査）の南側にあたる。

5　現地での実測・写真撮影等の記録は田中、橋本が発掘作業員の協力を得て作成した。空中写真撮影は有限会社スカイサーベイに、グリッド杭設置は有限会社宮崎エンジニアリングに委託した。

6　整理作業は宮崎県埋蔵文化財センターで行った。図面の作成・実測・トレースは田中が整理作業員の協力を得て担当した。

7　本書で使用した位置図は国土地理院発行２万５千分の１図「日向青島」、周辺地形図は宮崎市作成２千５百分の１図を基に作成した。

8　土層断面及び土器の色調等は農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版標準土色帖』による。

9　本書で使用した方位は、磁北と座標北（座標第Ⅱ系）である。座標北を用いた場合は、G.N.と表示している。レベルは海抜絶対高である。

10　本書で使用した遺構略号は以下のとおりである。

ＳＡ…竪穴住居跡

11　本書の執筆は第Ⅰ章第１節は松林が、他の執筆と編集は田中が担当した。

12　出土遺物・その他諸記録は、宮崎県埋蔵文化財センターに保管している。

本　文　目　次

第Ⅰ章　はじめに
　第１節　調査に至る経緯 …… 1
　第２節　調査の組織 …… 1
第Ⅱ章　調査の概要
　第１節　遺跡の位置と環境 …… 2
　第２節　層　序 …… 5
　第３節　調査の経過 …… 6
第Ⅲ章　調査の記録
　１　竪穴住居跡と出土遺物 …… 8
　２　自然流路跡と出土遺物 …… 9
　３　縄文時代の遺物 …… 10
　４　古墳時代の遺物 …… 11
　５　中世～近世の遺物 …… 11
第Ⅳ章　まとめ …… 14

挿　図　目　次

第１図　遺跡位置図 …… 3
第２図　右葛ヶ迫遺跡周辺地形図 …… 4
第３図　土層柱状図 …… 5
第４図　グリッド配置図 …… 6
第５図　遺構分布図 …… 7
第６図　竪穴住居跡実測図及び出土遺物実測図 …… 8
第７図　竪穴住居跡出土遺物実測図 …… 9
第８図　自然流路跡実測図及び出土遺物実測図 …… 9
第９図　出土遺物実測図① …… 10
第10図　出土遺物実測図② …… 11
第11図　出土遺物実測図③ …… 11
第12図　出土遺物実測図④ …… 12

表　目　次

第１表　縄文土器・土師器観察表 …… 12
第２表　石器計測表 …… 13
第３表　陶磁器観察表 …… 13

図　版　目　次

巻頭図版　右葛ヶ迫遺跡遠景（北西より）
図　版１　右葛ヶ迫遺跡遠景（南東より） …… 15
　　右葛ヶ迫遺跡全景（垂直） …… 15
図　版２　竪穴住居跡完掘状況 …… 16
　　竪穴住居跡出土遺物（土師器：甕・壺・石器） …… 16
図　版３　自然流路跡完掘状況 …… 17
　　自然流路跡出土遺物（土師器・石器） …… 17
　　出土遺物（縄文土器・土師器・石器） …… 17
図　版４　出土遺物（陶器・磁器） …… 18

第Ⅰ章　はじめに

第１節　調査に至る経緯

宮崎市の南に位置する加江田地区から日南市風田地区を結ぶ一般国道220号線沿いには、青島海水浴場や鵜戸神宮をはじめとする県内有数の観光地が点在しており、たびたび交通渋滞を引き起こしていた。また、台風や集中豪雨等による自然災害の際にも度重なる通行止めを引き起こしていたため、建設省九州地方整備局宮崎工事事務所による同国道の改良工事が、昭和47年から進められている。

宮崎県教育委員会文化課では、同国道改良工事の中で、平成元年から進められていた青島バイパス建設事業に伴って、平成４年度から埋蔵文化財の取扱いに関する協議を重ね、平成６・７年度に発掘調査を実施した。同調査では、縄文時代、弥生時代、古墳時代、古代におよぶ遺構・遺物が確認され、平成11年度に調査報告書を刊行した。この調査では、13,800㎡が調査対象地であったが、用地未買収により2,000㎡が未調査部分として残っており、買収後に調査する予定としていた。

この未調査部分の用地買収が完了し、工事着手の見通しがたったことから、国土交通省九州地方整備局宮崎工事事務所の委託を受けて、平成13年度に第２次調査を実施することとなった。

調査は、平成13年12月10日から平成14年１月28日まで900㎡を対象として実施した。

第２節　調査の組織

調査の組織は、次のとおりである。

調査主体		**発掘調査**＜平成13年度＞	**整理報告**＜平成14年度＞
宮崎県教育委員会			
	教育長	岩切正憲	岩切正憲
	教育次長	福永孝義	沼田憲明
	教育次長	川口靖文	川口靖文
	文化課長	黒岩正博	園田実穂
	課長補佐	井上貴	井上貴
	主幹兼庶務係長	長谷川勝海	長谷川勝海
	埋蔵文化財係長	石川悦雄	石川悦雄
	同係主査（調整担当）		竹井眞知子
	同係主任主事（調整担当）	松林豊樹	
宮崎県埋蔵文化財センター			
	所長	矢野剛	米良弘康
	副所長兼総務課長	菊地茂仁	大薗和博
	副所長兼調査第二課長	岩永哲夫	岩永哲夫
	総務係長	亀井維子	野邊文博
	調査第四係長	永友良典	永友良典
	調査第三係主任主事（調査担当）	田中光	田中光
	調査第四係主任主事（調査担当）	橋本英俊	

第Ⅱ章　調査の概要

第１節　遺跡の位置と環境

右葛ヶ迫遺跡は、宮崎平野の南東部に位置している。本遺跡の南南東約１kmには青島があり、北方に一ツ葉海岸を遠望することができる。青島は亜熱帯植物が群生していることで知られ、島周辺は隆起海床や奇形波蝕痕・波状岩などの地形で知られている。

宮崎平野南部を大淀川は東流し、日向灘に注いでいる。大淀川が運搬してきた土砂は黒潮の沿岸流（北から南に流れる）によって運ばれ、大淀川河口から南側に木崎浜、清武川河口、加江田川河口を経て青島に至る砂丘列を形成している。これらの砂丘列は縄文時代から形成され、調査地はこの砂丘列より内陸側に立地する。また、本遺跡の西側から南側にかけては斟鉢山や双石山など鵜戸山地が広がっている。調査地は標高約45ｍの丘陵の裾部東側にあり、標高は10ｍにも満たない。

本遺跡の周辺には松添遺跡（貝塚）・青島村古墳・萩原遺跡・納屋向遺跡・紫波州崎城跡・子供の国遺跡・子供の国西側遺跡などがある。

松添遺跡は本遺跡から北西約500ｍの砂丘上にあり、縄文時代後期から晩期の遺跡（貝塚）である。貝塚の範囲は東西12ｍ、南北18ｍに及ぶことが確認されている。貝塚からは貝殻文土器・黒色磨研土器等の土器類、石斧・石錘・石鏃等の石器類、骨篦・骨針等の骨角器、貝腕輪・貝刃器・貝斧等の貝器、カキ・アワビ・ハマグリ・サザエ等の貝類、スズキ・ブダイ・ブリ等の魚骨、イヌ・イノシシの陸獣骨、クジラ・イルカの海獣骨など多量で多様な遺物が出土している。

青島村古墳は本遺跡から北西約600ｍにある。県指定数は円墳５基であるが現在は２基だけが確認でき、ほとんど墳丘の形はとどめていない。５号墳の石室内より、６世紀後半の土師製の碗が出土している。

紫波州崎城跡は本遺跡から南東約1.5kmの丘陵の端部（「城山」と呼ばれる）にあり、筑波川や日向灘などの自然地形を利用して築かれた山城である。古くから海陸交通の要地である。中世は伊東氏48城の一つに数えられ、伊東氏と島津氏が争奪戦を繰り返した。近世は飫肥藩領となった。現在は主郭に相当する部分に仏舎利塔が建設されているが曲輪や空堀が確認できる。

本遺跡は平成６・７年度に今回の調査地の北側隣接地が宮崎県教育委員会文化課によって調査（第１次調査）されている。発掘調査の結果、縄文時代から近世にかけての遺構や遺物が多数検出された。特に古墳時代は竪穴住居跡８軒が確認され、集落があったことがうかがえる。

〈参考・引用文献〉

大淀川の歴史編集委員会　「大淀川の歴史」　1998

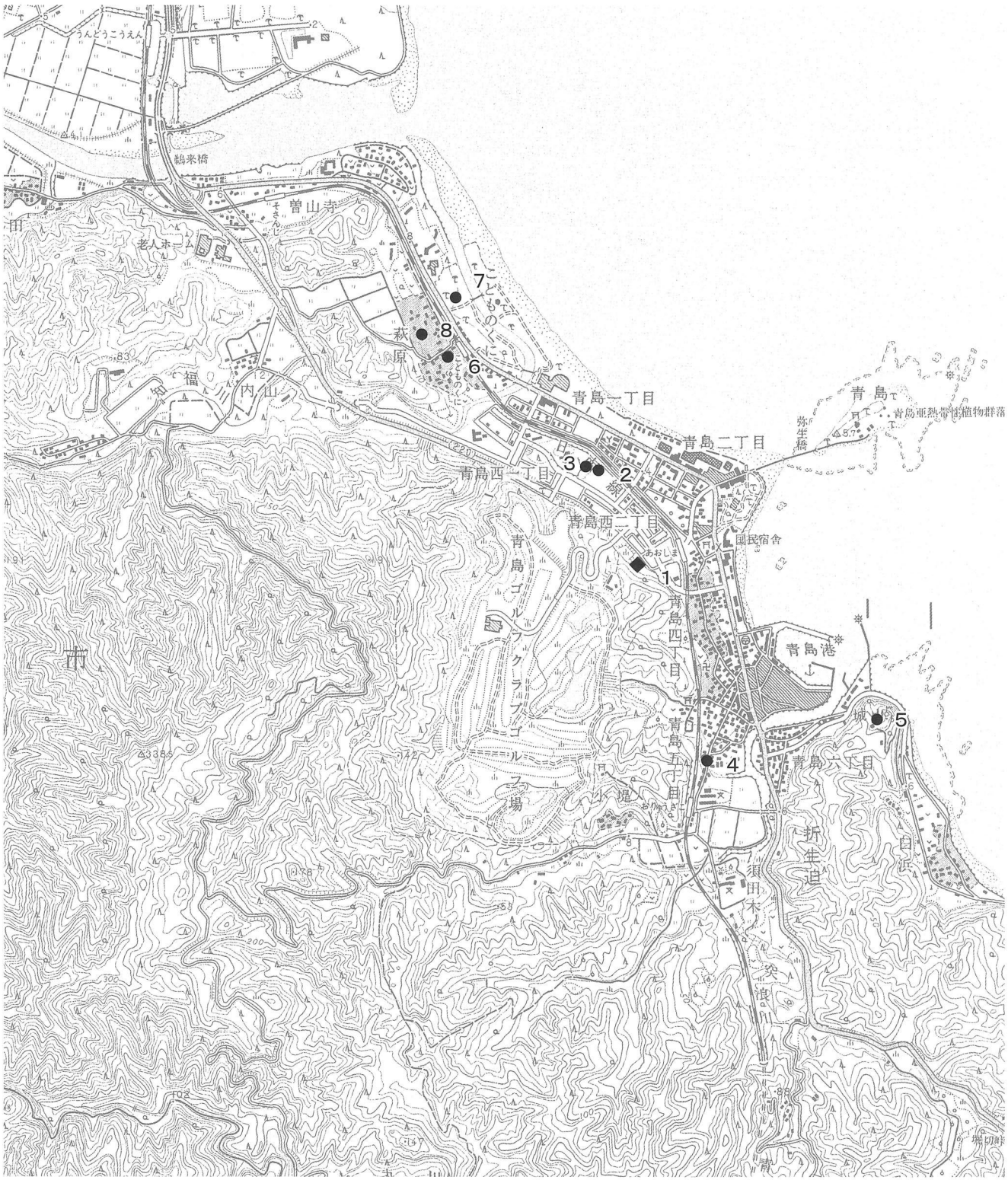
宮崎県史刊行会　『宮崎県史』資料編　考古１　1989

宮崎県教育委員会　「宮崎県中近世城館跡緊急分布調査報告書Ⅱ」詳説編　1999

宮崎県教育委員会　「右葛ヶ迫遺跡」一般国道220号線青島バイパス建設工事に伴う発掘調査報告書　2000

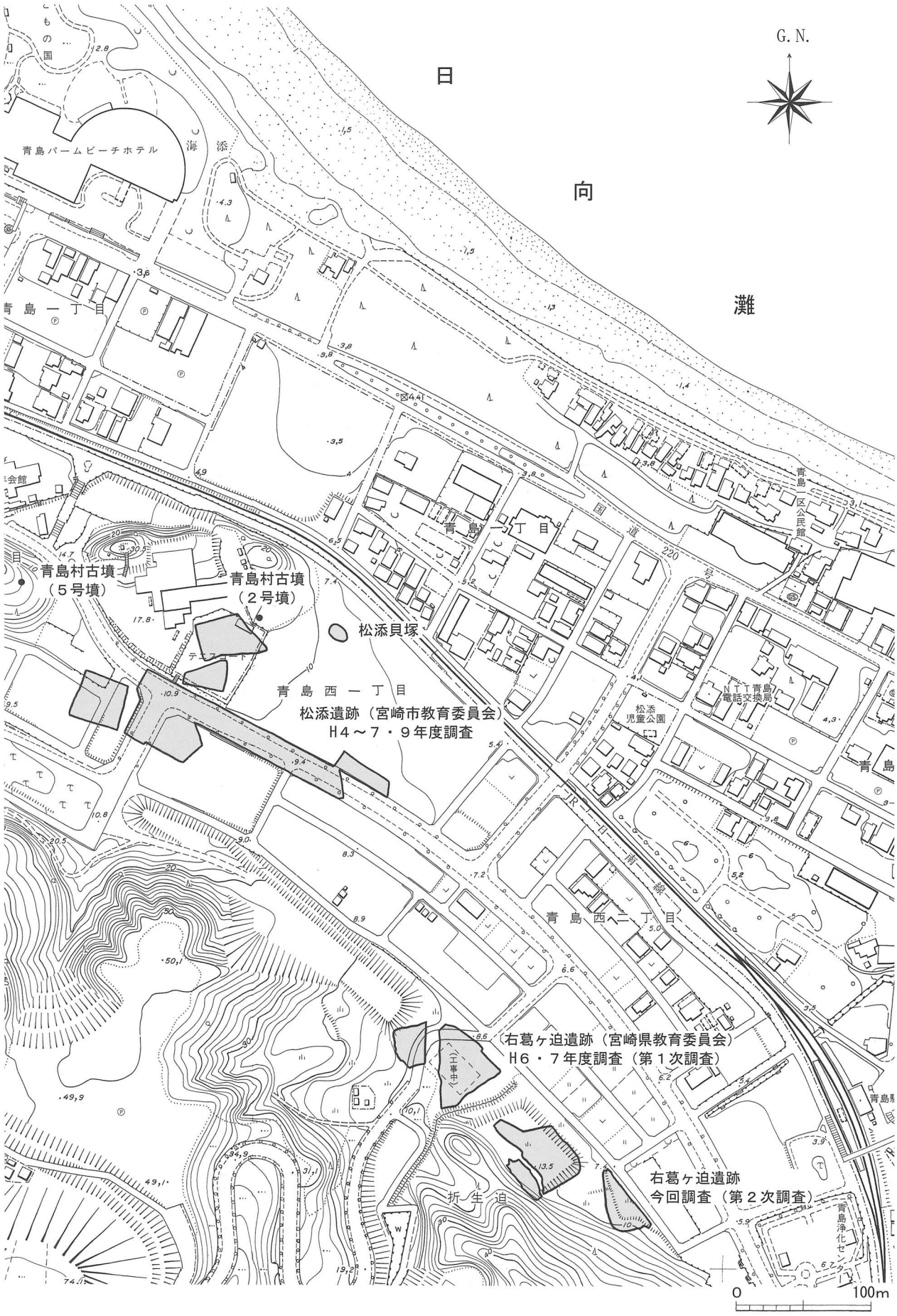
宮崎市教育委員会　「松添貝塚Ⅱ」　青島歴史公園整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書　1999

宮崎市教育委員会　「宮崎市の文化財」　2000



1：右葛ヶ迫遺跡　　2：松添貝塚　　3：青島村古墳
4：納屋向遺跡　　5：紫波洲崎城跡　　6：荻原遺跡
7：子供の国遺跡　　8：子供の国西側遺跡

第１図　遺跡位置図（S＝1／25,000）



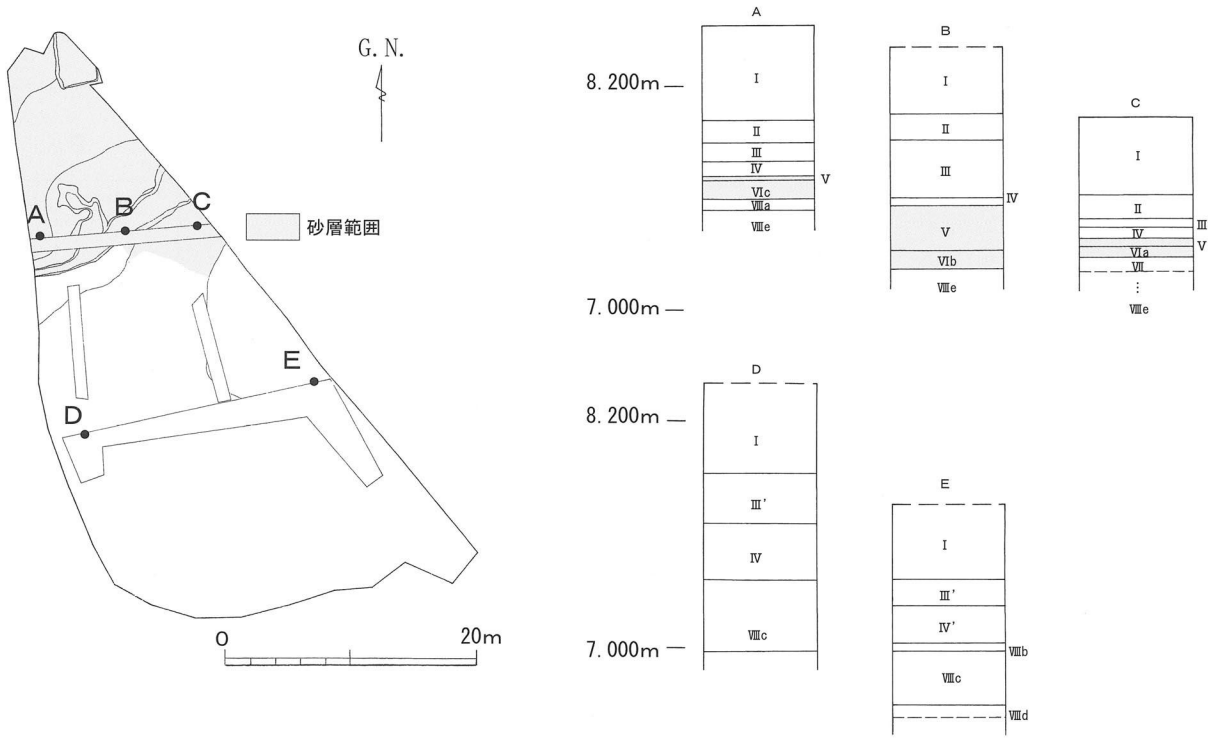
第２図　右葛ヶ迫遺跡周辺地形図（S＝1／4.000）

第２節　層　序

調査地は丘陵の裾部に位置しており、調査前は荒無地となっていた。丘陵部からの湧水のため湿地状態になっており、粘土が厚く堆積していた。表土付近では、最近の耕作のためと思われる段や木杭の列が確認できた。

上部の耕作土（粘土層）の下は、北側には砂層が広がっていた。この砂層は前述の砂丘列から続くものであると考えられる。南側では砂層は確認できず、粘土層が続いていた。

各トレンチ（の底面）は宮崎層群に達するまで掘り下げた。宮崎層群は北から南に向かって傾斜していた。（特に中央付近から傾斜が大きくなっていた。）Ａ～Ｅの柱状図はトレンチの北壁を利用して作成した。また、自然流路跡の付近では砂層の下に隆起海床と波状岩が確認できた。

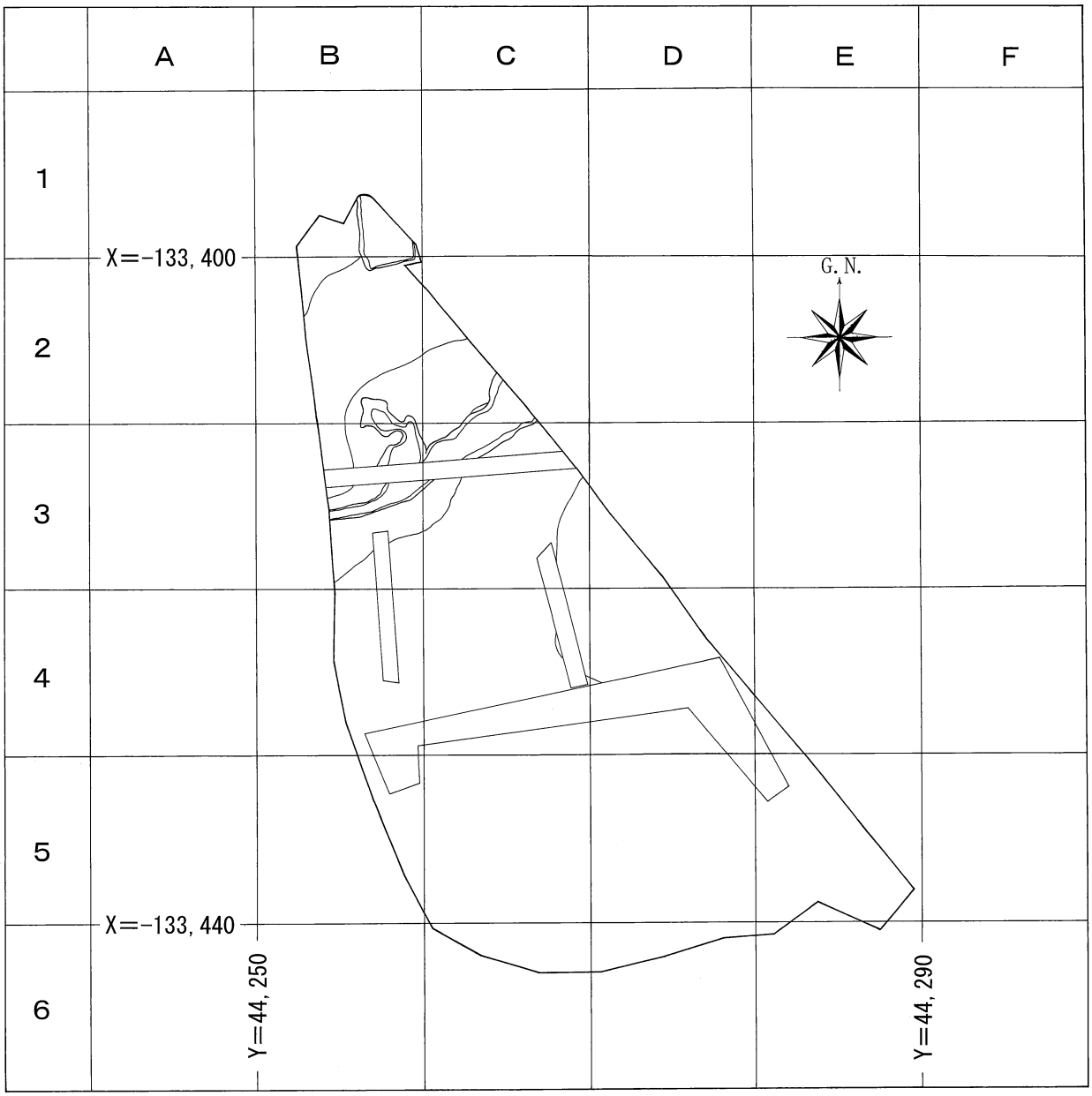


Ⅰ　層：表土及び耕作土層
Ⅱ　層：Ⅰ層より古い耕作土層
Ⅲ　層：橙色粘土層(7.5YR６／８)　植物根を含む。下部には暗褐色粒（鉄分）を含む。Ⅱ層より古い耕作土。
Ⅲ′層：橙色粘土層(7.5YR６／８)　Ⅱ層より、灰白色の部分が多くなる。砂粒を含む。Ⅱ層より古い耕作土。
Ⅳ　層：褐灰色粘土層(10YR５／１)　植物根と灰白色の軽石（長径２㎜以下）を含む。暗褐色粒（鉄分）を含む。
Ⅳ′層：褐灰色粘土層(10YR５／１)　Ⅳ層と同じであるが､暗褐色粒（鉄分）を含まない。
Ⅴ　層：褐灰色砂層(10YR４／１)　明赤褐色の粘土塊が混じる。灰白色の軽石（長径２㎜以下）を含む。
Ⅵａ層：褐灰色砂層(５YR４／２)　褐灰色砂にⅥｃ層の砂と粘土が混じる。
Ⅵｂ層：黒褐色砂層(10YR２／３)　下部には黄褐色の粘土が層状に混じる。遺物を多く含む。自然流路跡。
Ⅵｃ層：赤褐色砂層(５YR４／８)　Ⅷ層の粘土が塊状に混じる。遺物を含む。
Ⅶ　層：褐灰色砂層(7.5YR４／１)　褐色砂が混じる。部分的ににぶい黄褐色の粘土塊も混じる。
Ⅷａ層：明赤褐色粘土層(５YR５／８)　粘性は強く､下部は灰色の粘土層となる。(宮崎層群)
Ⅷｂ層：褐灰色粘土層(7.5YR４／１)　部分的に赤褐色をしており、軽石（長径１～２㎜）を含む。(宮崎層群)
Ⅷｃ層：褐灰色粘土層(7.5YR４／１)　Ⅸ層よりも赤褐色部分が多くなる。(宮崎層群)
Ⅷｄ層：褐灰色粘土層(５YR５／１)　褐灰色と赤褐色の粘土の層。粘性は強い。(宮崎層群)
Ⅷｅ層：灰白色粘土層(N７／)　上部は黄褐色をしている部分もある。(宮崎層群)
※　Ⅷ層は宮崎層群（風化層を含む）であり、ａ層～ｅ層の上下関係ははっきりしない。

第３図　土層柱状図

第３節　調査の経過

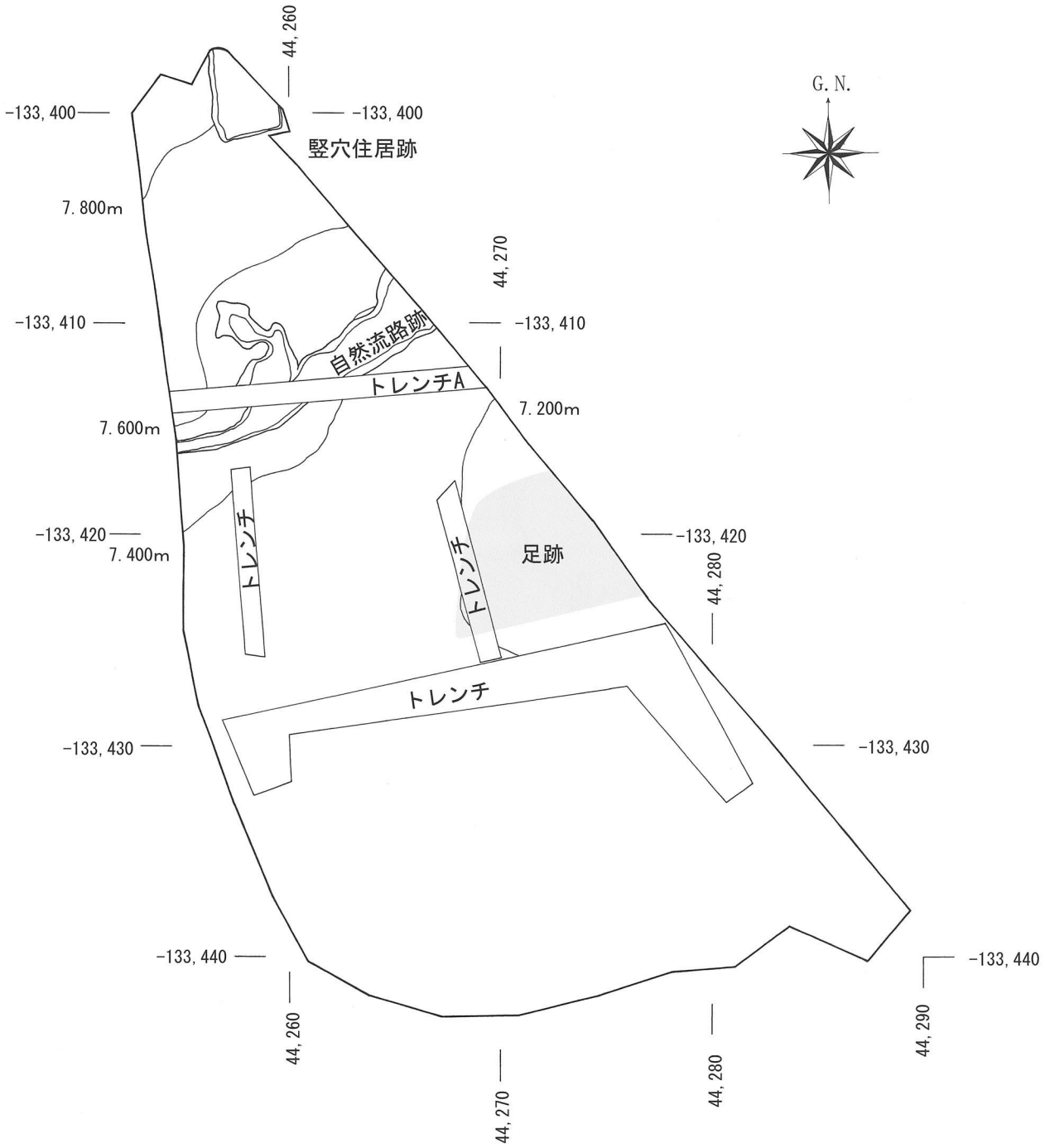
調査は平成13年12月10日から開始した。湿地状態を少しでも解消するため、まず、調査地の周囲に西側から南東側にかけて排水のための溝を設けた。その後、耕作土である表土（Ⅰ層）及びⅡ層を重機で除去した。Ⅲ層からは人力による掘り下げを始めたが、粘土層のため作業がなかなか進まなかった。前回（第１次調査）の北側隣接地の調査において、砂層から縄文時代～古墳時代にかけての多量の遺構や遺物が検出されたため、今回の調査でも砂層から遺構や遺物の検出が期待された。掘り下げを進めていくと調査地の北側はⅤ層以下は砂層であった。砂層（Ⅵ層）において竪穴住居跡、自然流路跡を検出した。遺物は土師器がⅥ層を中心に出土した。南側はトレンチを入れたが砂層は確認されなかった。Ⅲ’層において土師器・陶磁器等の遺物を出土し、足跡を検出した。平成14年１月28日に現地での調査を終了した。



第４図　グリッド配置図（S＝1／400）

第Ⅲ章　調査の記録

検出された遺構や遺物を「竪穴住居跡と出土遺物」、「自然流路跡と出土遺物」、遺構外出土の「縄文時代の遺物」・「古墳時代の遺物」・「中世～近世の遺物」の順に記述する。なお、掲載した遺物については観察表及び計測表を作成した。遺物の出土地点・サイズ・調整等の詳細については参照されたい。



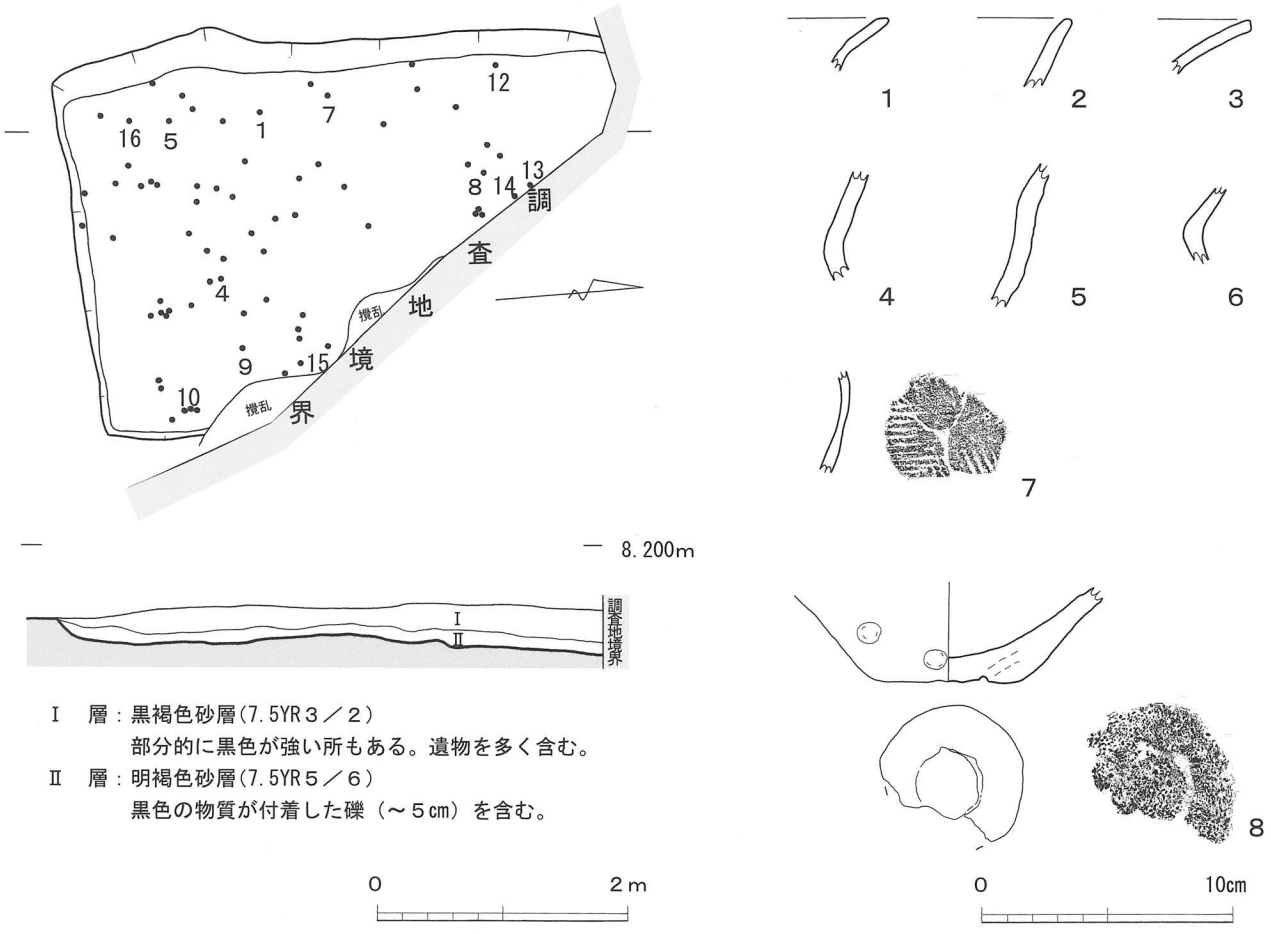
第５図　遺構分布図（S＝1／300）

1　竪穴住居跡と出土遺物

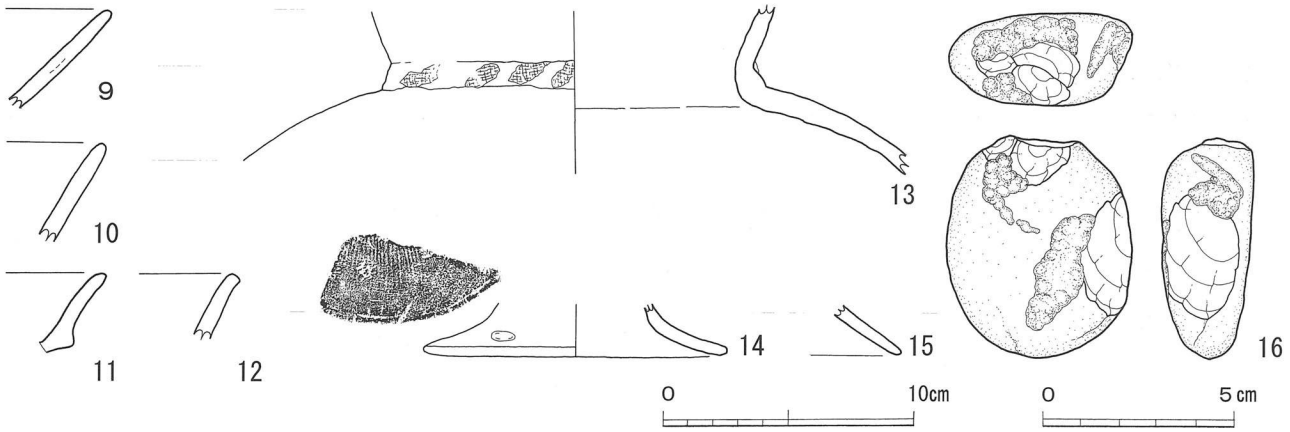
竪穴住居跡は１軒を調査地北端の境界付近から一部がかかる状態で検出した。境界付近ぎりぎりまで拡張して掘り下げ、遺構全体をできるだけ捉えられるようにしたが約半分は掘ることができなかった。また、境界付近は撹乱を受けていた。検出面はⅥ層の砂層である。長軸4.5m以上・短軸約3.0mの方形プランであると推定される。検出面から床面までの深さは約20～30cmであり、床面はほぼ水平であった。埋土は砂であるが、礫や軽石も含まれていた。床面下は宮崎層群の粘土層であった。遺構に伴う柱穴や焼土等は確認できなかった。

遺物は細片も含めて約70点が出土した。住居跡内全体に散在していた。そのうち、報告に耐えるものだけ実測し、掲載した。１～８は土師器の甕である。３は内外面ともに黒色の物質や砂が強く付着している。７は胴部で外面に平行タタキを施す。８は底部で外面に指頭痕を残し、内面は黒褐色を呈する。輪台により作成されている。９～13は土師器の壺である。11は二重口縁の壺と思われる。12は内面の調整がミガキである。13は布目痕のある貼付突帯を持つ。球胴形をしていると思われる。14と15は土師器の高坏の脚裾部である。14は外反する裾部を持ち、板状工具による縦方向のナデが施されている。15は直線状の裾部と思われる。16は敲石であり、上面と側面に敲打痕を持つ。表面に黒色の物質や砂が強く付着している。

床面付近から出土した遺物や礫の多くが黒色の物質や砂などが強く付着している。これはマンガンや鉄分が凝集したものと考えられる。



第６図　竪穴住居跡実測図（S＝1／60）及び出土遺物実測図（S＝1／3）

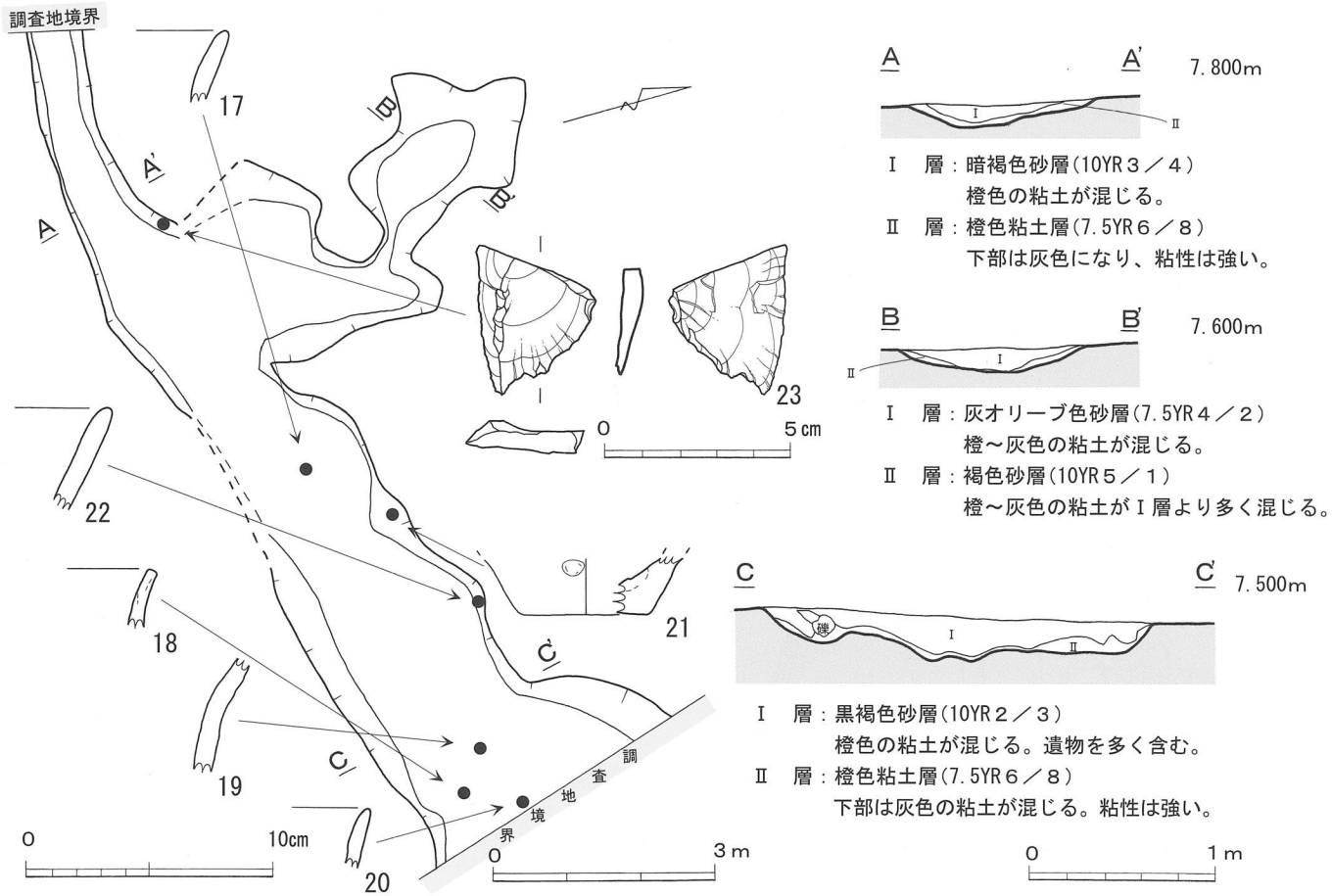


第７図　竪穴住居跡出土遺物実測図（S＝1／3, 16はS＝1／2）

2　自然流路跡と出土遺物

Ⅵ層から自然流路跡を検出した。検出した当初は溝状遺構の可能性もあると考えていたが、検出面に対しての深さがない（特に西側）ことなどから人工的なものでなく自然流路跡と判断した。埋土は砂であるが、底面に近い部分は粘土である。粘土は宮崎層群の砂泥互層につながる。検出面から底面までの深さは約５～30㎝である。自然流路は西－東に流れていたと考えられる。

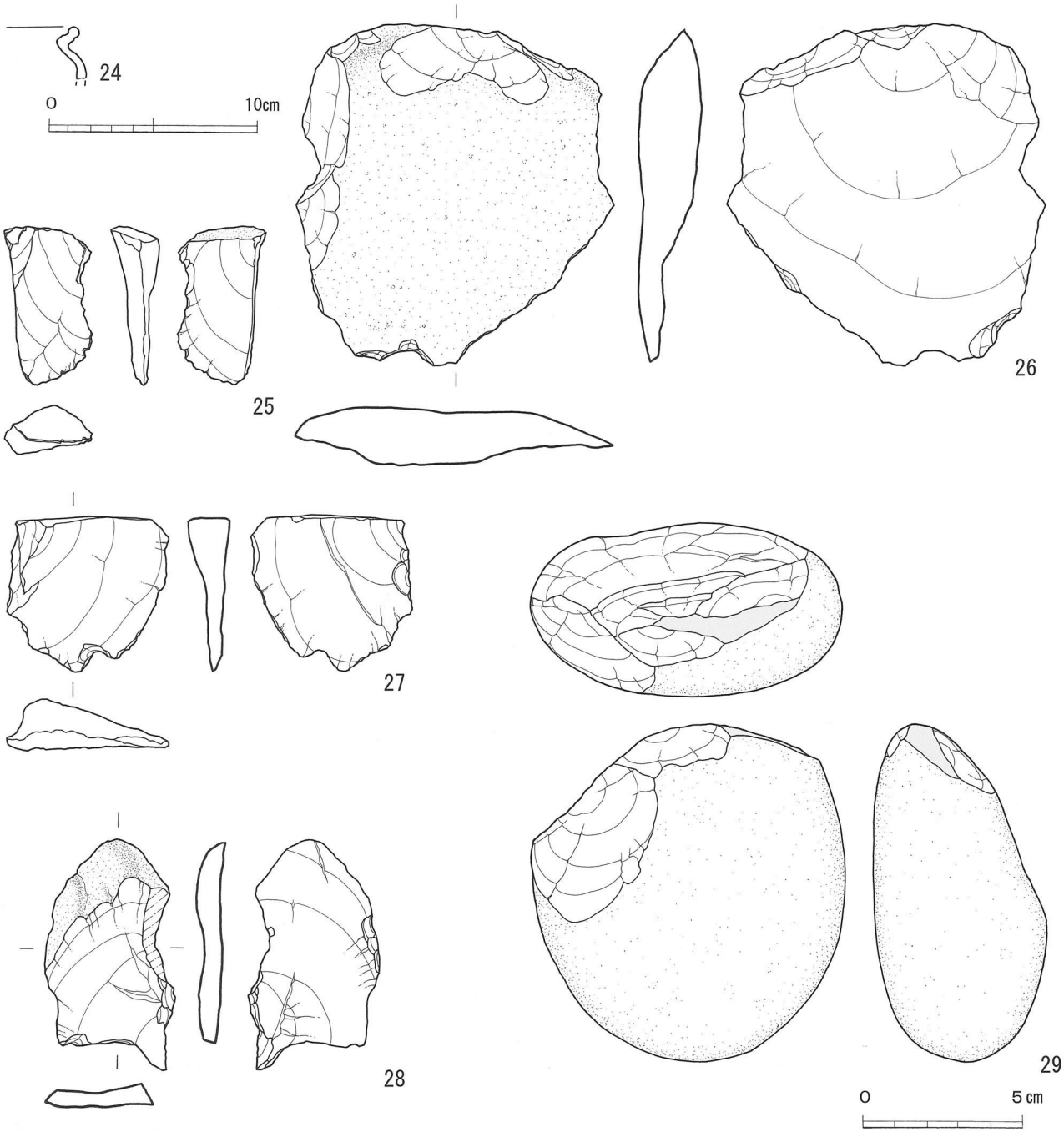
遺物はほとんどが土師器の細片であり、風化が著しい。110点あまりを出土した。実測に耐えるものが少なく、実測・掲載したものは７点である。17～21は土師器の甕である。21は底部で指頭痕が残る。22は土師器の壺と思われる。23は剥片である。時期が他の６点と違い縄文時代と考えられる。石材は砂岩である。



第８図　自然流路跡実測図（S＝1／100, 土層断面図はS＝1／40）及び出土遺物実測図（S＝1／3, 23はS＝1／2）

3　縄文時代の遺物

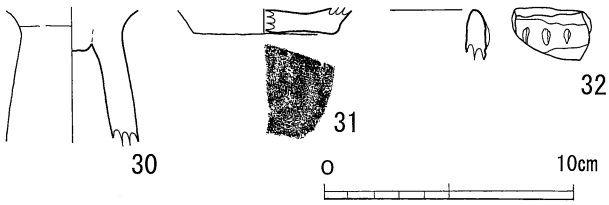
縄文時代の遺物はトレンチＡから土器が１点、表土（Ⅰ層）～Ⅲ’層にかけて石器類が数点出土している。石器類は流れ込みによるものと考えられる。24は浅鉢で口縁部内外面のそれぞれに沈線を施す。内面は風化が著しく確認できないが、外面はミガキで仕上げられている。黒色磨研土器と考えられる。25～28は剥片であり、27・28には２次加工がある。27は石材が尾鈴山酸性岩である。29は礫器である。風化が著しいが、頂部付近に敲打によると思われるツブレがある。石材は尾鈴山酸性岩である。石器類の時期は剥離調整や使用している石材などから縄文時代と考えているが、古墳時代の石器が含まれている可能性もある。



第９図　出土遺物実測図①（S＝1／2, 24はS＝1／3）

4　古墳時代の遺物

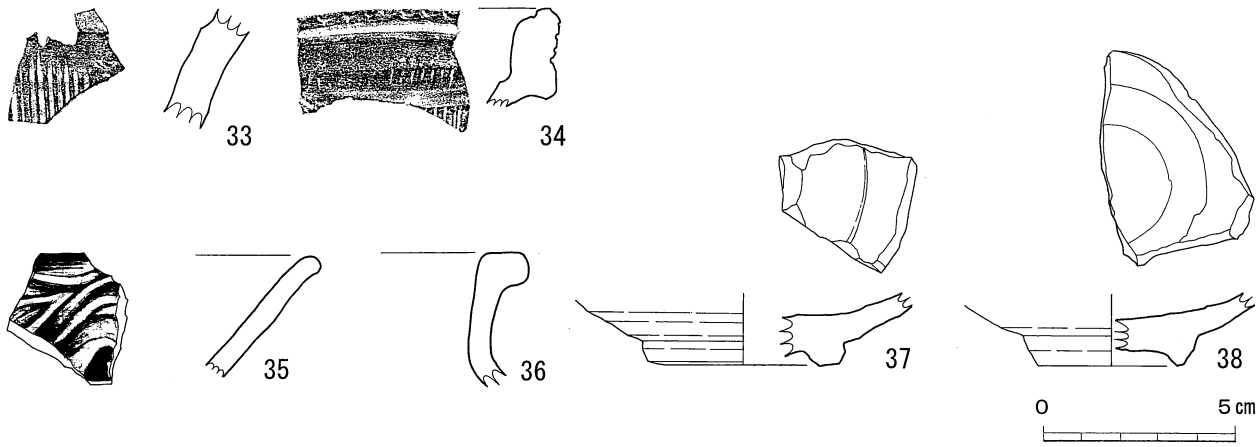
30～32は北側の砂層が検出できなくなる境界付近のⅢ’層（Ｃ３グリッド付近を中心に）から出土した。30～32は全て風化が著しい。30は土師器の高坏であり、円柱状の脚柱部である。31は坏の底部でへら切り底である。32は口縁部で貼付突帯を持つ。



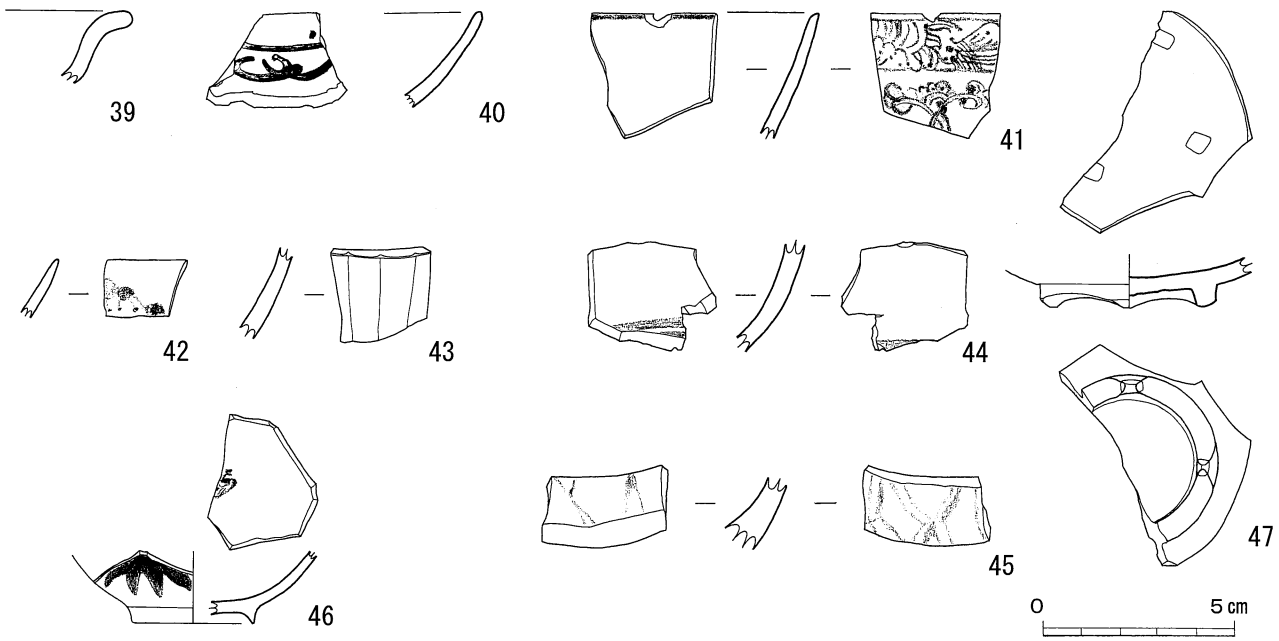
第10図　出土遺物実測図②（S＝1／3）

5　中世～近世の遺物

調査地の表土（Ⅰ層）～Ⅱ層及びⅢ’層（南側）のＣ３・Ｃ４・Ｄ３・Ｄ４グリッド付近を中心に中世から近世の陶磁器が出土した。33は擂鉢の頸部であり、16～17世紀の備前産と思われる。34は近世の擂鉢の口縁部である。１単位７本のカキ目を施している。（口縁部にわずかに残るカキ目で判断した。）35は唐津の鉢であり、内面に化粧土で刷毛目を施しており、口縁部は外反する。18世紀後半のものと思われる。36は壺の口縁部である。内外面に施釉しているが、釉薬がガラス化しておらず、焼成不良である。内面には刷毛目（と思われる）が残る。37と38は底部である。見込みに蛇目釉剥ぎを施し、高台は露胎である。輸入陶器と思われる。39は青磁の端反碗である。上田氏分類[1]の青磁碗Ｄ類に相当し、14世紀のものと思われる。40は染付皿である。内面に唐草文を持つ。41は染付碗であり、口縁部がわずかに外反する。外面に波濤文・アラベスク文を施し、内面の口縁部に界線を施す。小野氏分類[2]の染付碗Ｄ群に相当し、15世紀末～16世紀のものと思われる。42は染付碗の口縁部である。内外面に施釉し、外面に雪持笹文を持つ。43は青磁の碗である。内外面に施釉し、外面に線描連弁文を持つ。上田氏分類の青磁碗Ｂ－Ⅳ類に相当し、15世紀末～16世紀のものと思われる。44は陶胎染付の碗の体部である。45は染付碗の体部である。内外面に施釉し、内面に一重網目文を持ち、外面に二重網目文を持つ。17世紀の伊万里産である。46は染付の小坏の底部である。内外面に施釉し、内面に鷺（鶴）文を持ち、外面に草文を持つ。47は白磁の底部である。内面に釉を施し、見込みに目跡が残る。外面は切高台（露胎）である。小野氏分類の白磁皿Ｂ群に相当し、15世紀のものと思われる。



第11図　出土遺物実測図③（S＝1／2）



第12図　出土遺物実測図④（S＝1／2）

第１表　縄文土器・土師器観察表

遺物番号	種別	出土地点	器種	部位	法量（cm）			手法・調整・文様ほか		色調		胎土の特徴	備考
					口径	底径	器高	外面	内面	外面	内面		
1	土師器	SA１	甕	口縁部				ナデ	風化著しい	橙	橙	２㎜以下の黒色粒 １㎜以下の赤褐色粒	
2	土師器	SA１	甕	口縁部				ナデ	ナデ	橙	橙	１㎜以下の赤褐色粒	
3	土師器	SA１	甕	口縁部				砂が厚く付着	砂が厚く付着	浅黄	浅黄	１㎜以下の灰褐色粒	
4	土師器	SA１	甕	頚部				ヨコナデ	ヨコナデ	にぶい褐	にぶい黄橙	１～４㎜の褐灰色砂粒	
5	土師器	SA１	甕	頚部				ナデ	ナデ	黒褐	にぶい橙	３㎜以下のにぶい黄褐色粒 ３㎜以下の褐灰色砂粒	
6	土師器	SA１	甕	頚部				ナデ	ヨコナデ	橙	橙	３㎜以下の赤褐色砂粒 １㎜以下の黒色光沢粒	
7	土師器	SA１	甕	胴部				平行タタキ ナデ	ナデ	橙	橙	２㎜以下の赤褐色粒 ２㎜以下の灰色砂粒	
8	土師器	SA１	甕	底部		5.8		指頭痕 粘土紐痕、ナデ	ナデ	にぶい橙	黒褐	３㎜以下の褐灰色砂粒 ３㎜以下の褐色粒	
9	土師器	SA１	壺	口縁部				風化著しい	風化著しい	橙	明黄褐	1.5㎜以下の茶・灰色の粒	
10	土師器	SA１	壺	口縁部				ナデ	風化著しい	橙	橙	２㎜以下の茶・灰・白色粒 ６㎜大の灰色砂粒	
11	土師器	SA１	壺	口縁部				ヨコナデ	風化著しい	橙	橙	１㎜以下の灰黄褐・褐灰色粒	
12	土師器	SA１	壺	口縁部				ナデ	ミガキ	明褐	明褐	３㎜以下の灰色砂粒 ２㎜以下の白色光沢粒	
13	土師器	SA１	壺	頚部～胴部	(15.2)			貼付突帯（布目痕）、ナデ	ナデ	黄橙	黄橙	３㎜以下の白色粒 ３㎜以下の無色透明粒	
14	土師器	SA１	高坏	裾部		(12.0)		板状工具による縦方向のナデ ヨコナデ	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	１㎜以下の褐灰色粒	
15	土師器	SA１	高坏	裾部				ヨコナデ ナデ	ナデ	橙	橙	１㎜以下の半透明白色粒	
17	土師器	自然流路跡	甕	口縁部				風化著しい	風化著しい	橙	橙	２㎜以下の灰白色粒	
18	土師器	自然流路跡	甕	口縁部				ヨコナデ	ヨコナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	２㎜以下の褐灰色粒	
19	土師器	自然流路跡	甕	頚部				風化著しい	風化著しい	橙	にぶい橙	４㎜以下の灰褐色砂粒 ２㎜以下の茶褐色粒	
20	土師器	自然流路跡	甕	口縁部				風化著しい	風化著しい	橙	橙	３㎜以下の柱状の黒色光沢粒 ２㎜以下の灰黄・灰白色粒	
21	土師器	自然流路跡	甕	底部		(5.2)		指頭痕 ナデ	ナデ	橙	褐	３㎜以下の灰黄褐色粒	
22	土師器	自然流路跡	壺	口縁部				ナデ	ヨコナデ	明褐	明褐	２㎜以下の灰白・褐灰色粒	
24	縄文土器	トレンチA	浅鉢	口縁～胴部				沈線 ミガキ	沈線、 風化著しい	褐灰	黒褐	微細な白色粒（１㎜以下）	
30	土師器	Ⅲ'層	高杯	脚部				ナデ	ナデ	橙	橙	２㎜以下の褐灰色・灰黄褐色粒	
31	土師器	Ⅲ'層	坏	底部				風化著しい	風化著しい	にぶい黄橙	にぶい黄橙	１㎜以下のにぶい赤褐色粒	
32	土師器	Ⅲ'層	甕	口縁				貼付突帯	風化著しい	橙	橙	３㎜以下の黒色粒 １㎜以下の黒色透明光沢粒	

第２表　石器計測表

遺物番号	器　種	出土位置	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重さ(g)	石　材	備　考
16	敲　石	ＳＡ１	5.9	4.9	2.5	83.7	砂　岩	
23	剥　片	自然流路跡	4.0	3.2	0.9	7.7	砂　岩	
25	剥　片	表土～Ⅱ層	5.0	2.8	1.6	14.0	砂　岩	
26	剥　片	Ⅲ'層	10.8	11.0	1.8	238.7	尾鈴山酸性岩	
27	２次加工のある剥片	表土～Ⅱ層	5.0	5.2	1.6	29.9	砂　岩	
28	２次加工のある剥片	Ⅲ'層	7.4	4.1	0.8	28.7	砂　岩	
29	礫　器	表土～Ⅱ層	10.8	10.0	5.6	725.0	尾鈴山酸性岩	

第３表　陶磁器観察表

遺物番号	種別	出土地点	器種	部　位	法　量（cm）			手法・調整・文様ほか		色　調		胎土の特徴・焼成	備　考
					口径	底径	器高	外　面	内　面	胎土調	釉調		
33	陶器	表採	擂鉢	頸部				施釉・ヨコナデ	カキ目	にぶい赤褐色	にぶい赤褐	精良・堅緻	
34	陶器	表土～Ⅱ層	擂鉢	口縁部				施釉・沈線	無釉・カキ目	明赤褐	にぶい赤褐	精良・堅緻	
35	陶器	表土～Ⅱ層	鉢	口縁部				施釉	施釉・化粧土刷毛目	灰褐	灰褐	精良・堅緻	
36	陶器	表土～Ⅱ層	壺	口縁部				施釉	施釉	灰褐	灰白	精良・堅緻	
37	陶器	表土～Ⅱ層	皿	底部		5.0		施釉	施釉・蛇目釉剥ぎ	灰白	灰オリーブ	精良・堅緻	
38	陶器	表土～Ⅱ層	皿	底部		3.9		施釉	施釉・蛇目釉剥ぎ	灰白	灰オリーブ	精良・堅緻	
39	青磁	Ⅲ'層	碗	口縁部				施釉	施釉	灰白	灰オリーブ	精良・堅緻	
40	染付	表土～Ⅱ層	皿	口縁部				施釉・唐草文	施釉	灰白	灰白	精良・堅緻	
41	染付	Ⅳ'層	碗	口縁部	10.2			施釉・波濤文・アラベスク文	施釉	灰白	明青灰	精良・堅緻	
42	染付	トレンチA	碗	口縁部				施釉・雪持笹文	施釉	灰白	明青灰	精良・堅緻	
43	青磁	表採	碗	体部				施釉・線描連弁文	施釉	灰白	明緑灰	精良・堅緻	
44	染付	トレンチA	碗	体部				施釉	施釉	にぶい橙	灰	精良・堅緻	
45	染付	表土～Ⅱ層	碗	体部				施釉・二重網目文	施釉・一重網目文	灰白	明緑灰	精良・堅緻	
46	染付	表土～Ⅱ層	小坏	底部				施釉・草文	施釉・鷺（鶴）文	灰白	灰白	精良・堅緻	
47	白磁	Ⅲ'層	皿	高台		4.6		無釉	施釉	灰白	灰白	精良・堅緻	

第Ⅳ章　まとめ

右葛ヶ迫遺跡の今回の調査では主に縄文時代の遺物、古墳時代の遺構・遺物、中世から近世にかけての遺物を検出した。以下、調査の成果についてまとめたい。

縄文時代の遺物

今回の調査では縄文時代の遺物は土器１点と石器６点が出土している。土器は黒色磨研の浅鉢であり、口縁部が短く外反し、口縁部内外面に沈線を施すことから「黒川式土器」と考えられる。黒川式土器は前回の右葛ヶ迫遺跡発掘調査（第１次調査）や松添遺跡（貝塚）の調査においても出土している。調査地周辺が縄文時代晩期の生活の場であったことがうかがえる。石器はいずれも耕作土と考えられる層や自然流路跡からの出土であり原位置を保持していないが、調査地周辺がやはり縄文時代の生活の場であったことを示している。

古墳時代の遺構・遺物

古墳時代の遺構は竪穴住居跡が１軒検出されている。今塩屋・松永氏の編年[3)]に従って竪穴住居跡から出土した遺物のうち、風化が著しくなく比較的わかりやすいものを分類してみた。11は大型壺Ｃに相当し、２期または３期に属すると考えられる。13は大型壺Ｂに相当し、３期に属すると考えられる。８は甕の底部形態だけではあるが２類に相当すると考えられる。これらのことより、竪穴住居跡の時期は古墳時代中期前半と推定される。また、調査地の北側に広がっていると思われる砂層にこの竪穴住居跡が含まれる集落があった可能性も考えられる。さらに、前回の右葛ヶ迫遺跡発掘調査（第１次調査）においても「須恵器が出現する前の段階の集落があった」ことが報告されているので、その関連性も考えられる。

中世～近世の遺物

中世～近世の遺物は表土や耕作土と思われる層からの出土であり、原位置を保持していないと考えられる。14世紀以降の輸入陶磁器や近世の備前・唐津・伊万里などの国産陶磁器を出土しており、調査地付近に中世（14世紀）～近世（18世紀末）にかけての遺構が存在している可能性があることも想定できる。また、Ⅲ’層のＤ４グリット付近からは判然とはしないが人や家畜のものと思われる足跡を検出した。Ⅲ’層には暗褐色粒（鉄分と思われる）が含まれていること、出土遺物が14世紀～15世紀のものであることなどから、面的に捉えることはできなかったが古い時期の水田跡である可能性も考えられる。

〈註〉

１）上田　秀夫　『14～16世紀の青磁碗の分類について』「貿易陶磁研究」№.２　日本貿易陶磁研究会　1998

２）小野　正敏　『15～16世紀の染付碗、皿の分類と年代』「貿易陶磁研究」№.２　日本貿易陶磁研究会　1998

３）今塩屋　毅行・松永　幸寿　『日向における古墳時代中～後期の土師器』～宮崎平野を中心にして～
第５回九州前方後円墳研究会「古墳時代中・後期の土師器」－その編年と地域性－発表要旨資料　2002

〈参考文献〉

宮崎市教育委員会　「松添貝塚Ⅱ」青島歴史公園整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書　1999

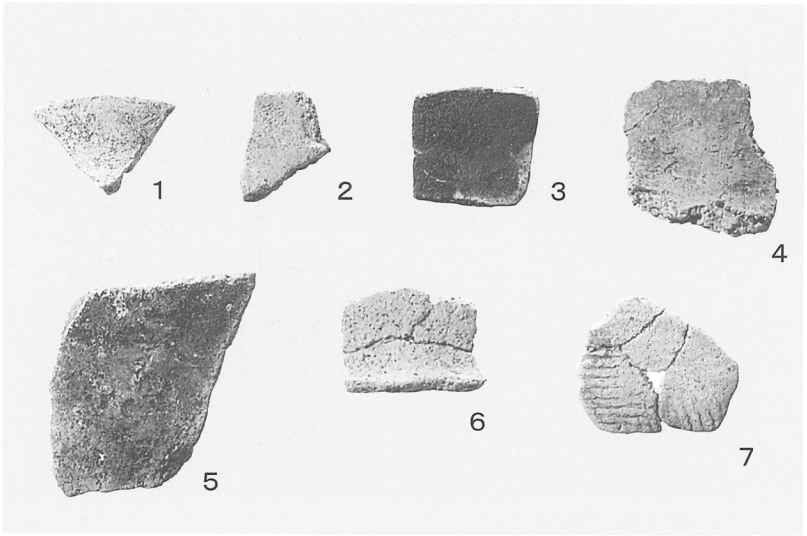
宮崎県教育委員会　「右葛ヶ迫遺跡」一般国道220号線青島バイパス建設工事に伴う発掘調査報告書　2000

右葛ヶ迫遺跡遠景（南東より）

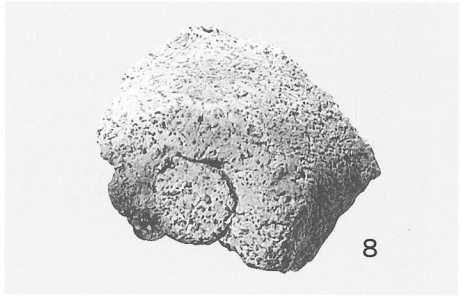
右葛ヶ迫遺跡全景（垂直）

図　版２

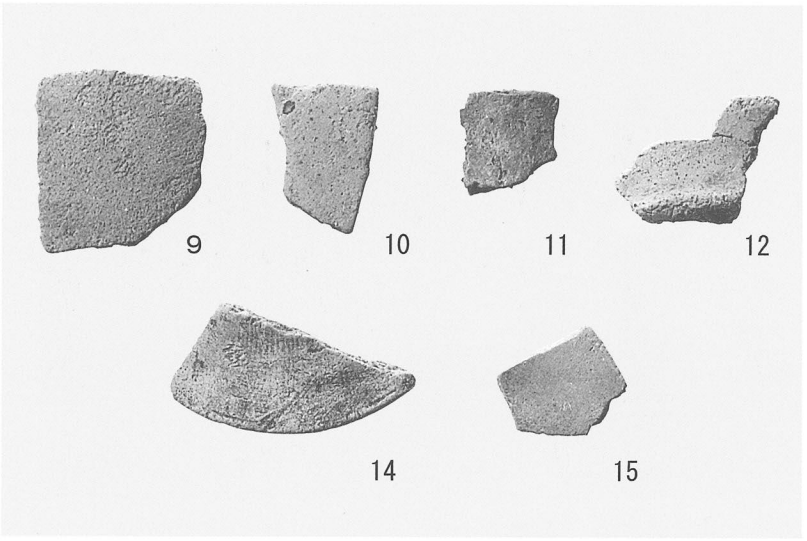
竪穴住居跡完掘状況



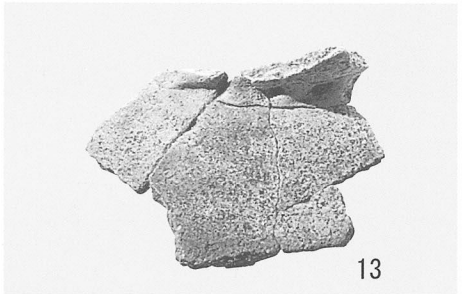
竪穴住居跡出土遺物（土師器・甕）



竪穴住居跡出土遺物（土師器・甕）



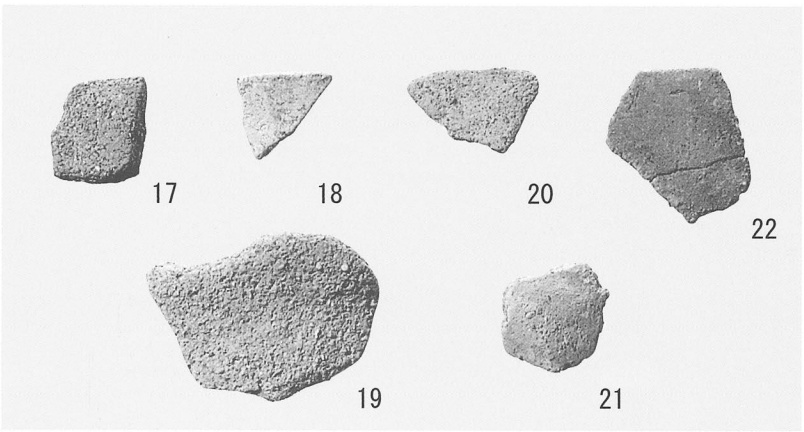
竪穴住居跡出土遺物（土師器・壺）



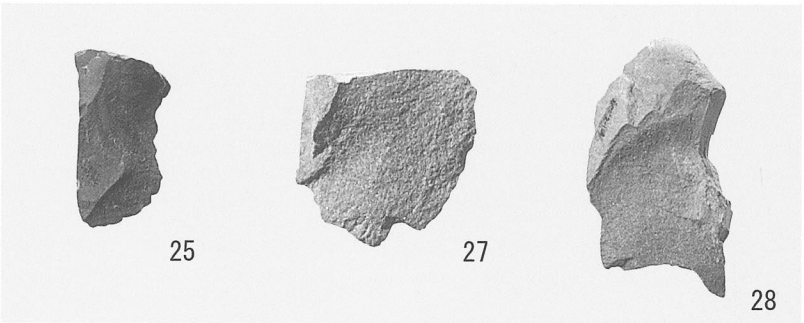
竪穴住居跡出土遺物（土師器・壺）

竪穴住居跡出土遺物（石器）

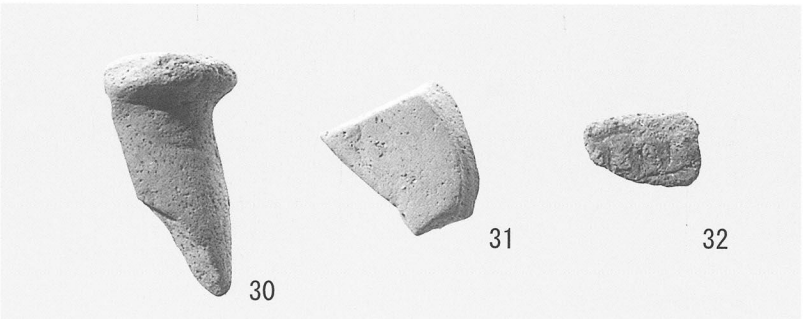
自然流路跡完掘状況



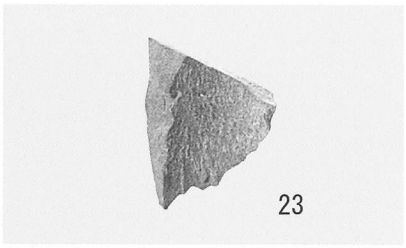
自然流路跡出土遺物（土師器）



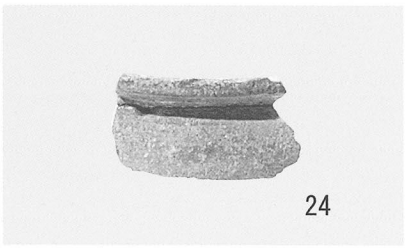
出土遺物（石器）



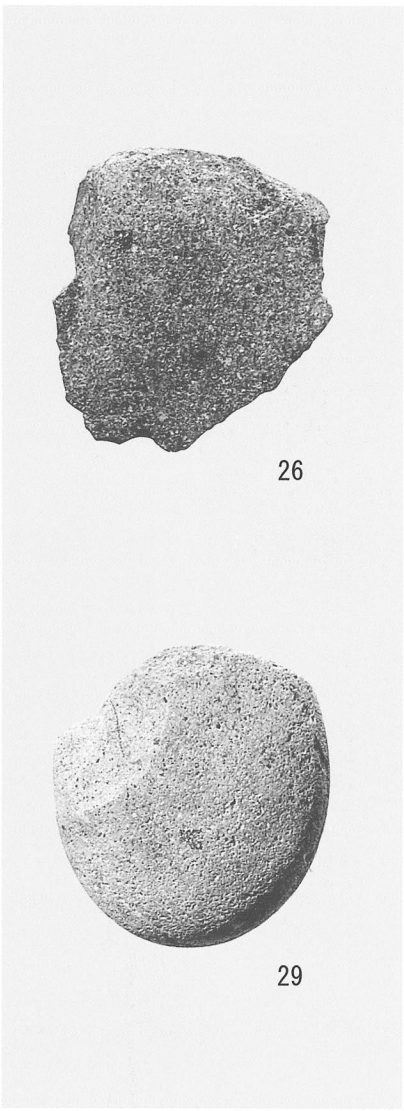
出土遺物（土師器）



自然流路跡出土遺物（石器）

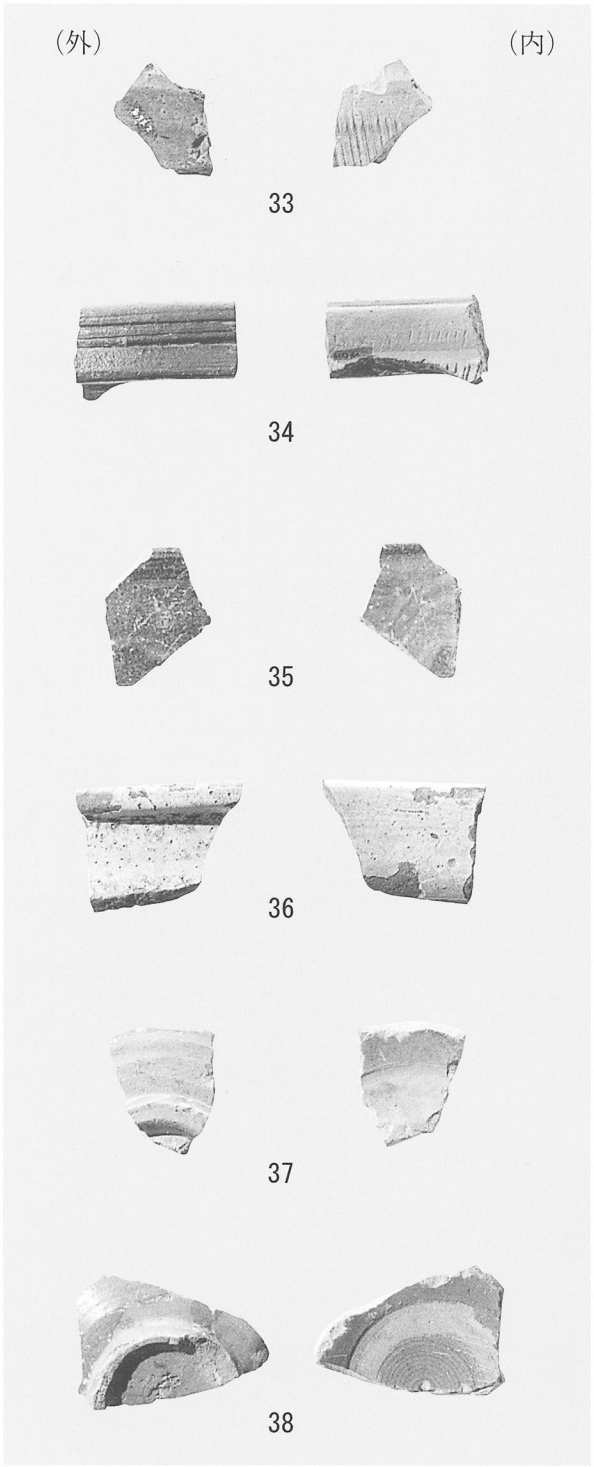


出土遺物（縄文土器）

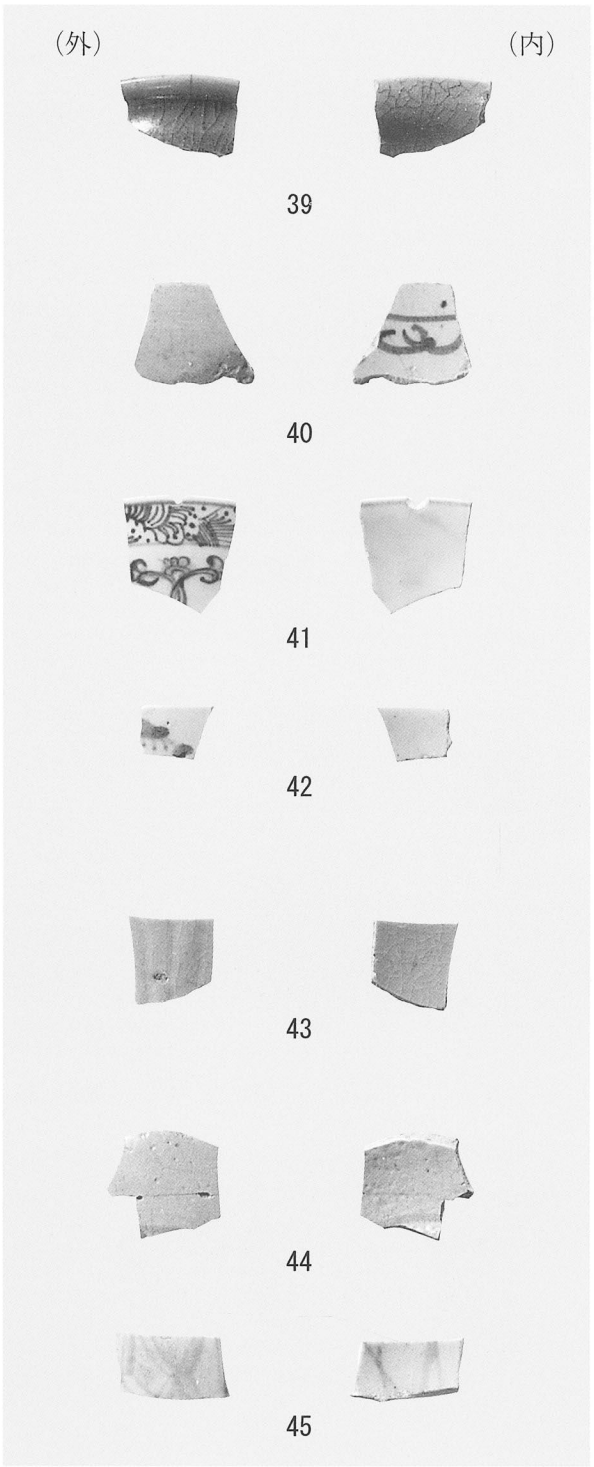


出土遺物（石器）

図　版４



出土遺物（陶器）



出土遺物（磁器）

出土遺物（磁器）

報告書抄録

ふりがな	みぎくずがさこいせき（だいにじちょうさ）
書　名	右葛ヶ迫遺跡（第２次調査）
副 書 名	一般国道220号青島～日南改良に伴う発掘調査報告書
シリーズ名	宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書
シリーズ番号	第66集
編著者名	田中　光
編集機関	宮崎県埋蔵文化財センター
所 在 地	〒880-0212　宮崎県宮崎郡佐土原町大字下那珂4019番地
発行年月日	2002年12月25日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所 在 地	市町村 コード	遺跡 コード	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
みぎくずがさこいせき 右葛ヶ迫遺跡	みやざきしおおあざ 宮崎市大字 おりゅうざこ 折生迫1308－２	45201		31°47′44″ 付近	131°28′05″ 付近	20011210 ～ 20020128	900㎡	一般国道220号青島～日南改良

種　別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
集落跡	古墳時代	竪穴住居跡	土師器	自然流路跡

宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書　第66集

右葛ヶ迫遺跡（第２次調査）

一般国道220号青島～日南改良に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

２００２年１２月

発　行　　宮崎県埋蔵文化財センター
〒880－0212　宮崎県宮崎郡佐土原町大字下那珂4019番地
ＴＥＬ　0985－36－1171　　ＦＡＸ　0985－72－0660

印　刷　　株式会社エス アイ エス
〒880－0852　宮崎県宮崎市高洲町50－４
ＴＥＬ　0985－27－8899　　ＦＡＸ　0985－28－3025